

地域の宝 陸羽東線

大崎市はJR陸羽東線の存続に向けて利活用促進に取り組んでいます。

市民皆様もご承知のとおり、昨年7月にJR東日本は令和3年度の1日あたりの輸送密度が2,000人未満の線区の経営情報を開示しました。これにより、陸羽東線の「古川～鳴子温泉」、「鳴子温泉～最上」、「最上～新庄」の線区が該当し、さらに輸送密度1,000人未満/日という厳しい利用状況に危機感を強くしたところです。

注)輸送密度とは旅客営業キロ(下記表の区間)1キロあたりの1日平均旅客輸送人員(平均乗車数)

区間	1987年度(S62)	2020年度(R2)	2021年度(R3)	2022年度(R4)
小牛田～新庄	2,411	629	660	687
小牛田～古川	8,926	2,818	3,075	3,331
古川～鳴子温泉	2,740	666	665	708
鳴子温泉～最上	456	41	44	44
最上～新庄	1,273	289	306	254

大崎市は、この現状を市民皆様と共有するとともに、陸羽東線の存続に向けて、利活用促進に関する取り組みを実践すべく、「再構築検討会議」を設置するとともに、沿線地域の古川、岩出山、鳴子温泉の各地で地域懇談会を開催し、市民や関係機関の皆様と一緒に利活用促進策の具体的な協議と検討を進め、年度末に「陸羽東線の利活用促進に関する検討報告書」を取りまとめました。(検討報告書は右記の二次元コードを読み取ってアクセスください)



(市ウェブサイト)



輸送密度 1,000人/日を目指に (古川～鳴子温泉区間)

令和5年度より、検討報告書に取りまとめた利活用策の実施に取り組みながら、令和7年度までの3か年で達成を目指します。

本年度は、行政、民間、市民の3者が陸羽東線の存続に向けて、利活用促進に取り組む意識啓発を図りながら、それぞれにおいてできる活動を展開しており、少しずつではありますが、活動が広がりを見せて

います。スローガンは「**大崎全市民! 年に1回は陸羽東線を利用しよう**」です。

マイカー利用が定着した現代では、通勤・通学・通院等で利用される方や沿線地域の方々だけでは、利用促進は困難です。

マイレールの意識を持って「**乗ろうよ! 陸羽東線**」を合言葉に、市民皆様の応援をお願いいたします。

「**地域の宝・陸羽東線**」を未来に引き継いでまいりましょう!

